04 未知の巨大魚を発見！

本村 浩之
Hiroyuki Motomura
▶ 鹿児島大学総合研究博物館　館長・教授

2008 年 4 月 9 日，ボルネオ島のサラワク州から 1 通のメールが届いた．

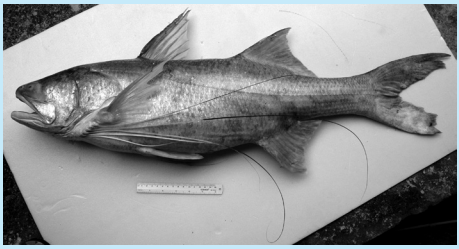
ちょうど新年度が始まり大学キャンパス内の人口が急増する慌ただしい中，この日も世界各地から魚の同定（種名を特定すること）に関する数十件の依頼メールを受信し，もれなく添付されている写真を見ながら同定結果を返信していた．一般の方からの問い合わせに答えるのは博物館としての仕事の一環だ．問題のメールには写真が添付されておらず，送信者の自己紹介の後に「ツバメコノシロ科の新種かもしれない」という文言とその魚の特徴が書かれており，アドバイスを求めるものであった．一般の方からのメールにはよくあるパターンである．身近な図鑑に載っていない魚はすべて新種として扱われるのだ．今回もそんな感じだろうと思い，写真を送るよう返事をした．

数日後，サラワク水産研究所のアニー・リムさんから写真が届いた．標本が冷凍されていて，解凍と撮影に時間がかかったようだ．添付画像を開く間際，頭の中で何種かのツバメコノシロ科の名前が浮かんだ．きっとそのいずれかに該当するだろうと思いながら，写真をみるとそんな妄想が一気に吹き飛んだ．その魚は全長 90 cm を超え，しかも既知のどの種にも該当しない特徴をもっていたのである．一目で未記載種（発表前の新種のこと）であるとわかった．

ちょうどその頃，マレー半島東岸にあるトレンガヌ大学とボルネオ島のサバ大学にそれぞれ会議と共同調査で出張することになった．サラワク州は両大学の中間地点である．この機会を生かすために，各大学と調整し，3 日間のサラワク調査を計画した．トレンガヌからサラワクの州都クチンへは小型機で飛んだが，機体にトラブルが発生したことから，ボルネオ北部の小さな島に不時着．島で 1 泊を余儀なくされ，翌朝クチンに到着した．東南アジアでは珍しいことではない．気持ちを新たに，空港で出迎えてくれたアニーとともに早速研究所に向かう．彼女はこの魚を 5 個体冷凍してくれていた．

標本を確認した後，研究所長のアルバート・ガンマンさんをはじめ，20 名近くの職員と打ち合わせをし，この魚が採集されたバタンルパー河の河口に向けて出発した．私を含めて 8 人がランドクルーザー2 台に分乗し，未舗装の道路走る．片道 4 時間の道のりであった．途中，小さな魚市場で，金色をした 40 cm くらいの淡水フグや蛍光オレンジ色をした淡水カタクチイワシなど，珍しい魚たちと遭遇した．

目的地，バタンルパー河は対岸が見えないほどの広大な河口であった．この調査では新たな個体を採集することができなかったが，発見から 2 年後の 2010 年 3 月，私たちはこの魚を新種 *Polydactylus luparensis* Lim, Motomura & Gambang, 2010 として発表することができた．ボルネオ北部はおよそ 1 万年前には陸地になっていたことが知られている．バタンルパー河の河口にのみ生息するこの魚はいったいどこからきたのか，その謎を解明するための調査は始まったばかりである．



ボルネオ・サラワク州のバタンルパー河から発見された新種の魚 *Polydactylus luparensis*．2008年と2011年に調査が行われたが，追加個体は採集されなかった．個体数が少なく，生息域が極めて狭いことから，絶滅の危機に瀕している